愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢五厘　一ヶ月分七錢　三ヶ月貳拾壹錢　半年分四拾貳錢　一ヶ年分八拾四錢　金圓無遞送料　郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十一番地　大日本女學會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社說

時事偶感

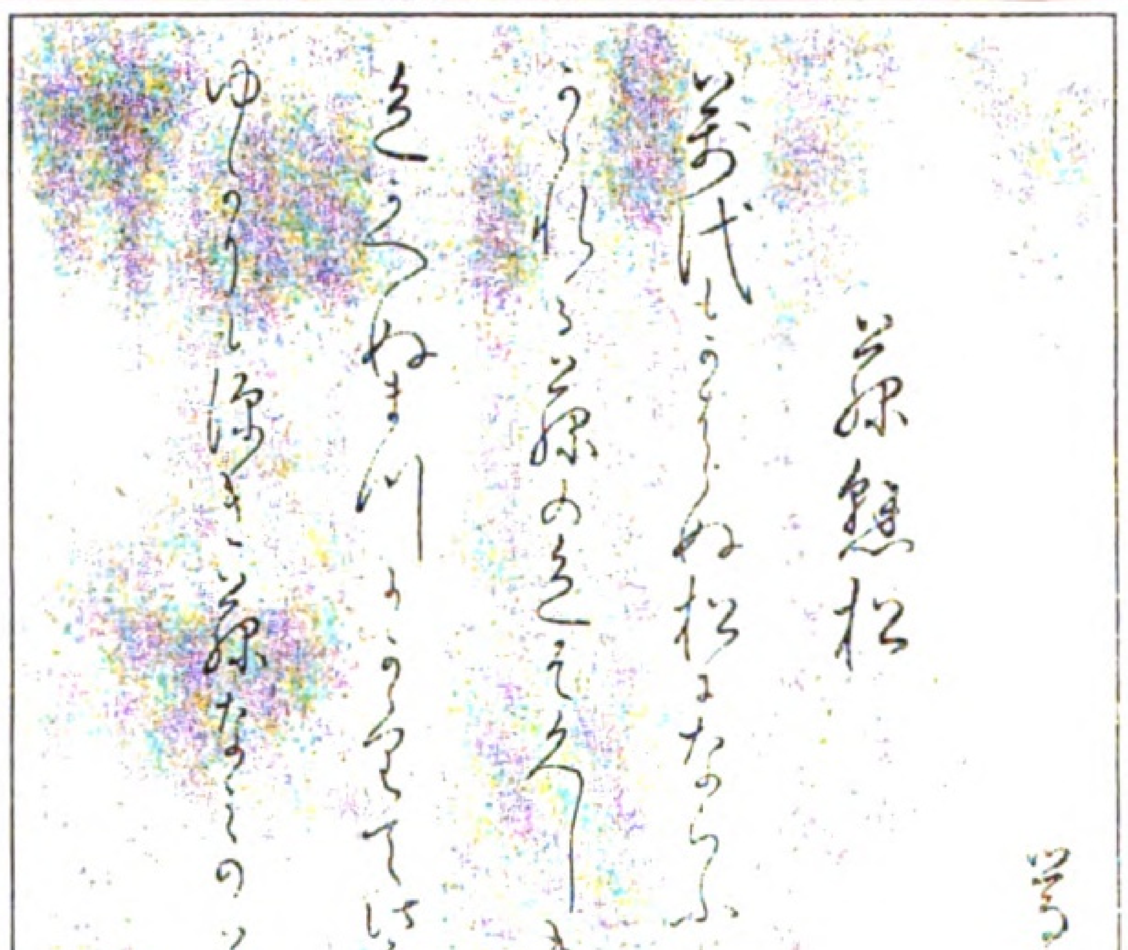
今年は氣候不順の爲に、饑饉にならねばよいがと、誰しも心配した事であッたが、千葉・富山・宮城等數縣の外、殊に關西は、槪してさのみ甚しき不作ではない樣である。是は農學者の說に、夏中空氣の濕度が低くかつた割合に、地中の濕度が降らなかッたからである、といふことである。併しながら、兎に角中々の不作で、昨年に比べると、千萬石も少いであらう。一石拾參圓としても、千萬石では一億參千萬圓で、隨分莫大の相違である。然るに玆に愁眉をひらくべきは、今年の生絲貿易が大層景氣の良い事である。是れは固より、得意先の外國に於て、其經濟の事情が都合よいからであらうが、一には日本の貿易商人の考へが進步したのが一原因を爲して居るといふ事である。其譯は、從來生絲の注文が多い時は、忽ち法外の高直をとなへ出し、双方睨合となッて、賣行がとまり、遂に日本商人は我慢がしきれないで、投賣を始める、外國商人は其れを安く買入れて奇利を博するといふ有樣であッたが、今年は以前の覆轍をふまずに、注文が多くても法外の高直をとなへまいといふ申合をした爲に、取引が圓滑に進行して、生糸貿易の盛況を來した一原因となッて居るのである、といふ事である。元來日本商人は誠に卑劣な習慣があッて、眼前慾で遠大の考がなく、信義を重んじない爲に、貿易上に非常に不利なることは、識者の憤慨する所であるが、此度着眼點を高くしたのは、實に歎ぶべき事である。斯樣な話は、婦人方には餘り適切な關係がない樣であるが、商事は最も大切な邦國の生產事業であり、殊に生絲は手荒な男子には出來ない、必ず靱やかな婦人の手を煩して製出せらるゝ所の、日本第一の輸出物である。折角婦人方の丹精で出來た生絲を、商人の不心得から、貿易市場で不覺を取るといふ事は、實に殘念な譯である。米の不作は天災であッて、何とも致し方のない事であるが、心を入れかへれば直るべき商人の惡弊の爲に、國家に損失を蒙らしめると云ふに至ッては、歎はしき極である。然るを、此度その惡弊を改めて、商業上の進步を見るに至ッたのは、國民一般の一大慶事であると思ふ。

三輪田女學校開校式祝辭

伯爵　大隈重信

此一篇は、去にし四日、本會評議員三輪田眞佐子女史が經營に成れる、三輪田女學校の開校式に於て、大隈伯爵がものせられたる演說の大要なり。校閲を經たるにあらざれば誤りなきを保せず。文字の責はすべて記者にあり。

今日は御案內を受けまして、三輪田女史より何か一言お話を致すやうにとのことであります。私は丁度此一週間ほど不快でありまして、昨夜も矢張り足が痛みまして、實は今日はお斷りをしなければならぬかと思うて居りましたが、幸にまづ輕快を得まして、それから心持も宜しくなりましたから、折角三輪田女史の苦心經營で成立ッた所の學校の開校式に、出席致さぬのも甚だ遺憾と存じまして、推して參會を致した次第であります。別に何の考もございませぬが、此五六年來女子大學其他の事で、段々御懇意に致して居ります。尤も女史のお名は古く承ッて居りました。以前女史の夫たりしお方は、曾て私が一緒に政府に仕へたと云ふやうな關係がありまして、お名は古くから存じて居りましたが、ツイ御目に懸る機會もないやうな譯でありましたが、幸に私も女子の教育に少しく關係を致した爲に、御目に懸る機會を得て、それから直接に餘り三輪田氏より承りは致しませぬが、種々友人より承りますると、早く夫にお離れになり、而して從來この漢學の素養のお有りになるお方で、常に人文の發達に伴ッて、教育といふことの、大切なることを感じて、專ら教育に力を用ゐて居られ、遂に此度自ら財產を拋ッて此學校をお起しになると云ふことを承ッて、深く感激致して居ッた譯である。唯今御養子の御報告て、愈委しいことを承ッて、其感じを一層深くしたやうな譯である。凡そ教育の要は、唯事柄を知るといふ形式的の智識、若くは道德其他の形式を知るといふことのみでは、迚も人の精神や、總て人の行が、教育の上に十分なる感化を與へることが甚だ乏しい、隨分口に道德を說いて、行ひは甚だそれに副はないと云ふことは、往々世間にあることでありますが、教員其者若くは創立者其者の感化力といふものは、是は偉大なものである。決して書物に書いたもの、教員の講義の如きものではないと、私は信じまするのであります。吾々深く女史の履歷を存ぜないでも、唯今の御子息の御報告を承ッても、餘程感奮するやうな次第でありますから、況や斯の如きお方によッて、教育を受ける所の皆さんは、餘程お幸福であると存じまするのであります。凡そ感化力の偉大なることは其人による。其言語に依るよりは必ず其人によつて偉大な效を奏する。而して其力は決して一校に止まらずして、他に感化力を及ぼすと云ふ勢力を持ッて居る。是迄女子の教育は、度々失敗したのである。曾て十四五年前には、女子の教育は隨分盛であッて、此勢で進んだならば、日本の女子の地位といふものは、餘程高まるであらう。女子の地位の高まるに就て、自ら此一國の風俗の上、殊に家庭の上に、女子の勢力は加はッて來るであらうと、甚だ將來に望を屬して喜んで居ッた譯でありましたが、此の初めの女子の教育は、先づ槪ね失敗に終ッたやうである。是は教育家以外の人の批評のみならず、教育家自らも誤てりと考へたやうである。一時餘程衰運に向ッた。所が此四五年來再び女子の教育が、所謂時勢の必要から盛になッて參りまして、唯今東京府知事の祝詞にもある通りに、近來到る處に女子教育の學校が起り、又政府に於ても餘程獎勵されて居りますので、此三四年女子の高等學校といふものは到る處に起るのである。又是は必然起らなければならぬことであると信ずる。先づ小學を卒業するのは、十四五乃至遲くとも十五六で卒業する、まだ婚姻するには時期が早い、而して小學教育では不完全であッて、進んで小學以上の教育が必要である。其必要は十分皆さん御感じになッたに相違ない、又父兄の方も十分感じたに相違ない。所が學ぶ所がないと云ふ譯で、所謂時勢の必要に應じて、近來この女子高等の教育が續々盛に起ッて來たといふことであると思ふ。所が此盛なる有樣を以て見ますると。甚だ悅ぶべきことであるが、同時に甚だ恐るべきことがある。一たび誤ッたことは、再び其の過ちを繰り返さぬと云ふことは言へないのである、此の過ちを再びするといふことは、實に恐るべきことである。此の如き時に當ッて、只今お話する如く、三輪田女史の精神を盡されて、產を拋ッて、畢世の業として、此學校を起されたといふが如きことは、事少なりと雖も、一般の女子教育の上には、最も大なる感動を與へるに相違ないと信ずるのである。（未完）



評議員　伯爵夫人　阿部篤子筆

あしひきの山かきくもりしくるれと
もみちはいとゝてりまさりけり
貫之

電話番町壹千三百三十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

〇懷舊談（二）

海軍大尉　長尾耕作

〇兄の仇　橋立に二人の篠崎があッた、此二人は骨肉の間柄で、兄は一等兵曹、弟は一等水兵、しかも共に艦内の模範とするに足るべき好人物である。彼の黄海の戰に、橋立は敵彈の爲三十二「サンチ」砲臺を撃たれ、大尉二人、下士一人を殺され、下士卒七名を傷けられた。兄の篠崎は此砲臺員の一番で、自ら大砲を發射すべき職務であッたが、重傷で治療所に送られた。砲員には欠員が出來た、砲の一番は他の下士を充て、其他の下士卒も之を補充して、三十二「サンチ」の巨砲は矢張り盛んに活動してをッた。其補充砲員中に弟の篠崎が居ッた、彼は兄が負傷した砲臺内に這入ッて、敵を粉碎すべき巨砲を操縦するは、如何に喜ばしかッたであろうか。

〇字西京　橋立は東學黨事變の爲、二十七年七月五日初めて役務に就いた。第一に備入れた「コック」は西京の生れとかで、人皆之を西京と呼んだ。彼は自ら日本料理に通ずると稱してをッたが、日本も、西洋も餘り上手と賞むべき御手際ではなかッた。黄海の戰爭中に、彼は賄所の當番であッた。橋立の賄所は上甲板に在るので、彈丸の「ヒューッ」と飛ぶ音も能く聞え、砲煙も盛んに見える。西京は元來が軍人仕込みでないから、此有樣を見て多少心持ちが能くないらしい、しかし流石は日本男兒であるから、恐ろしいとは云はないでをッた。偶々非常の破裂の音がしたので、何事かと驚いて賄所から出て來たが、不幸にして小な彈丸の破片が其頭に中ッた。若し彼が破裂の音にも驚か無いだけの勇氣があッて、平氣で賄所にをれば、コンナ不幸はなかッたのに。彼は其翌々日備を解かれて本國に送られた。

〇金毘羅大權現　日清戰役中には守り札の寄贈がお澤山あッて、將校下士卒に分配したが、折角厚意で送られたものゆゑ其處置に閉口した。下士卒の中には大切に保存して、潜に拜してをる迷信家もあッた。余は第二軍の花園口上陸の時に、小蒸汽艇一隻と「ボート」三隻とを以て陸軍の揚陸を補助しに行ッた。運送船と上陸場は三四里もあるので、小蒸汽艇で「ボート」三隻に兵士を滿載して引いて行くには中々時間が掛り、一日四五度の往復しか出來なかッた。或夜非常の荒天に會したが、「ボート」は運送船の船尾に紡ひ、小蒸汽艇は其附近に碇泊し、予は運送船に宿泊する事となッたが、第四回の揚陸が手間取ッたのと、波の高いのとで眠に就いたのが午後十時過であッた。風は次第に強ぐ、端尾の日本船は二三隻も破壞して流れて仕舞ッた。其騷ぎであるから、小蒸汽艇は波に搖られて迚も安眠どころか、打込む波を防ぐに困難をした。其波の甚だしい時は、錨索が切れる位に搖り上げ搖り下け、何とも云へぬ恐ろしい心持がしたさうである。此時小蒸汽艇の乘員の一人は守り札を出して、金毘羅大權現と祈ッてをッたとの事で、外の水兵、機關兵は後に彼を笑ッたが、海軍で恐ろしいのは實に波と風で、其力の盛な時には凄まじいもので、多年海に慣れた者は兎も角も、餘り經驗の無いものが怖れるのは無理でないのである。間も無く波は靜まり夜が明けたが、此間に一大事件が出來した。昔時なら腹でも切らなければならないのであるが、幸な事には夫れ迄に及ばなかッた、如何なる事であるかは次回まで御預り。　（つゞく）

譚談

北京籠城の婦人

森林黒猿

楢原書記官は七月十一日の戰爭に足を負傷せられたのが元となりましたが、遂に破傷風と變じてお痛はしくも同月廿二日に死去されて了ひました。同夫人のお歎きは一通りではありません、取分け乳呑兒がお有りなさいますので、是がお困りでムいます。思ふ樣にお乳は出ないし、それに嫲母の鎌田と云ふ婦人が病氣ではあるし、流石に雄々しき楢原政子夫人も大いにお困りでムいましたが、肅王府には牛乳の鑵詰があると聞きましたから、夜になッて御自身に王府へお出でになりまして、日本指揮官たる柴中佐にお會になり、先づ御挨拶の濟んだ上「アノ寔に申難い事でムいまして恐入りますが、牛乳の鑵詰がお有りでムいますならば、縱令一個だけでも宜しうムいますから、万望お讓りを願ひたうムいますが如何でありませう。

柴中佐「牛乳が……怎麼なさるのでムいますな。

政子夫人「アノ、子供に呑かせたうムいますので。私しの乳は思ふ樣に出ませず、其上嫲母は病氣で居りますし寔に困りまして。承りますれば貴官の所には、牛乳がお有りなさるとの事ですから、寔しても戴きますれば子供が助かりますので、万望お聞濟みを願ひたうムいます。と餘儀なき頼みに、柴中佐は暫時默然として考へて居られましたが、稍あッて「寔に御道理なる御請求でムいます、實は玆處に牛乳は三個ほどムいますが、今怎麼も是を差上げると云ふ事は出來ぬです、それは何故かと申しまするとと、今にもあれ將校が負傷しますと、此の牛乳で、而も僅かに此だけしかない牛乳で、命を繋がせなくてはならぬです、貴女も御存じでありませうが、負傷したのは他の病氣など、違うて二日か三日持ち堪へると、それでズッと快くなッて直きに癒ッて了ふです。サア其の僅々二三日さへ持ち堪へれば好いと云ふ場合に、此の牛乳の有ると無いとで死生の別れる樣な事があるのです。それですから今の場合此の纔かな牛乳が、將校の生命を保ち得ると保ち得ないとの境になッて居るですから、貴女もお子供衆がお可愛いでせうが、万望此の道理を能くお聞分けになッて、お子衆は何とかして下さい。

と事を分けてお話しになりますと、政子夫人は稍暫らく俯向いて居られましたが、流石に西郷家のお血統だけあッて、莞爾とお笑ひになりまして、「事を分けての御説諭、寔に能く分りました。今の場合將校方のお命と、子供一人位の命とは迚も比較は出來ません、宜しうムいます、爾承りまして貴官が遣はすと被仰ッても、私しが御辭退申上げなくてはなりません、小兒は怎麼なりして育ちますから。と好く道理がお分りになッたばかりか、悲しげなるお顔もなさらないで、笑みを含んで歸り去られたさうですが、是を見て居られた人々は皆歎賞止まなかッたさうでムいます。是が籠城婦人中の大評判になりましたので、英國人から楢原夫人へ牛乳の鑵詰を贈ッた人もあッたとの事でありまするが、何しろ是も籠城婦人の一美談でムいますから一寸演じて置きます。　（つゞく）

愛國婦人會々員の數そひ行くを歎びて　評議員　中山幸子

月毎にかずもかさみてみゆるかな
　みくにのためにつくす人々

月を觀てよめる　同

をすまきてみそなはすらむ大宮の
　みそのさやけき秋の夜の月

ものおもふ人はなほさらさやかなる
　よこひの月にねられさるらむ

さをさしてかけなくたきそすみた川
　そこにさやけき月をこそみめ

むさしのゝを花の上に今そいつる
　月の光のさやけかりけり

むらさめのはれわたりたる月かけは
　とらふすのへもさやけかるらむ

三輪田女學校の開校をほきてよめる歌　公爵夫人　近衛貞子

おいまつのめぐみの露にうるほひて
　さくかやまとのなでしこのはな

本月六日宮中月次御歌會詠進

御兼題　旅宿蟲

たび衣かりねのやとのさむきよに
　つゝりさせてふ虫のなく也　柳原愛子

いねかてにきゝふかすこそさひしけれ
　たひねの宿のこほろきのこゑ　園祥子

ふるさともさむくなるらむきり／＼す
　たひねの床によたゝなく也　姉小路良子

虫のこゑきゝてそふかせなかき夜も
　かたる友なきたひのやとりに　小池道子

たひ枕みやこ戀しくおもひねの
　なかきよすから虫もなくなり　北島以登子

たひねするよことにきけはふる里に
　きゝならしつる虫のねそする　鈴木小舟

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

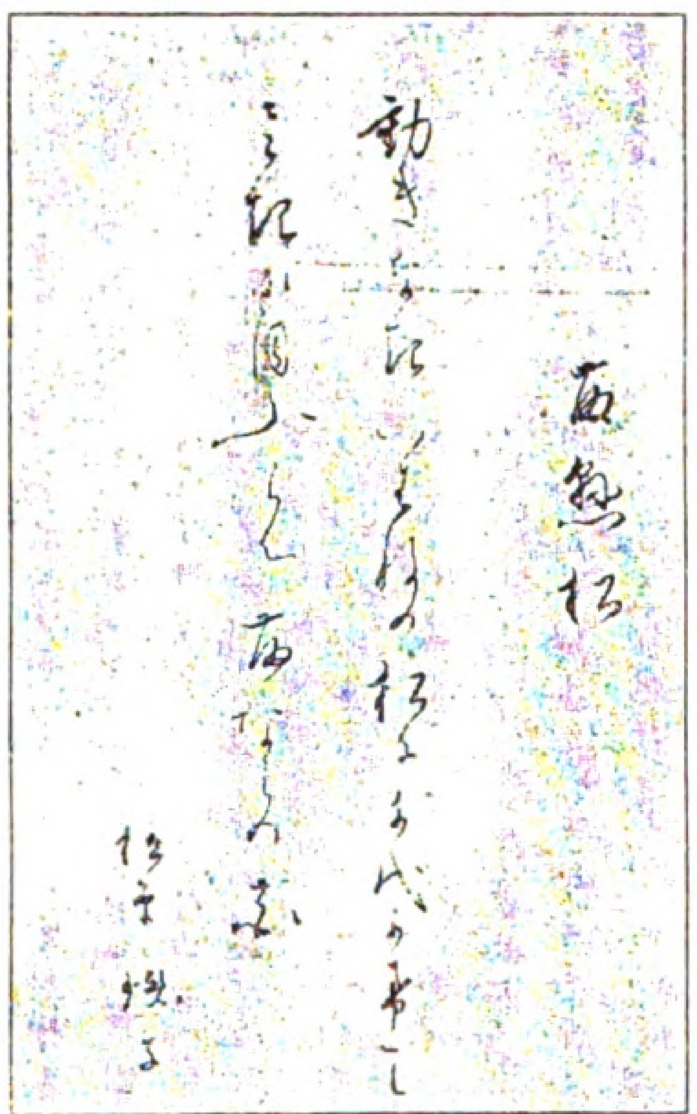
愛國婦人傳

吉田松陰の北堂

評議員　下田歌子

米艦渡來の後、大政維新の前、四方の豪傑、雲のごとく起りて、英名、雷の如くきこえたる人、其數、甚だ少なからざりしと雖も、先づ指を屈して、膽略才學ともに俊秀なりと稱せらるゝ者は、また最と左ばかりは多からざりしなり。而して、長門の名士、吉田松陰ぬしこそは、誰れしの人も必ずこれが其當時の國士が一二等の地位に置きて、敢て其れより下れりとせざるならん。さるからに賢兒を出だすは、賢母の膝下よりすなるべしてふ例の心癖に、其が、家庭のこと、能く知る人につきて、問ひきゝたれば、果たせる哉、この名士また、賢婦人が出なりしこそ、最といみじくも賴もしきことなれ。いでや其母刀自がうへ、おぼし〳〵くとも、聞きつるまゝに、かつ〳〵書き記して、はかなくかれし松の下庵に、のこるはゝその斯かる大御代の光りに遇ひぬるよしを、うらわかき女子に告げ知らせまゐらせてまし。若し、洩れたる、將た、過れるどものあらんは、幸ひに、なほ、知る人在して、叱正したまはんとて、斯くながらかなん。

雄鹿鳴く、萩の城下の片邊りに、浮世を秋と住みなしたる、いとさゝやかなる家居あり。朝の畑細く靡きて、夕べの燈幽かなるを見れば、一簞の食、一瓢の飮も、しば〳〵空しきを告ぐるにはあらずやと覺ゆる、外見わびしき軒端なれども、主人は顏子がながれを汲んで、其樂みを改めざるすぐれ人にもやあるらん。勤仕の暇明くるより暮るゝまで、近きわたりの子どもらに、授くる讀書の聲を斷つと無し。或時は、鋤を肩にして、山邊の雲に耕し、或時は、竿を手にして、小川の水に釣す。家に八百株の桑無ければ蠶養の窓は開かねども、夫を助け、子を育み、苧うみ、糸くり、機織り、裁ち縫ふわざは、云ふも更なり、田艸とり、稻刈ることにも下り立ちて、おどろが髮の艶けも無く、つげの小櫛もとらで勞く、妻も妻なり、夫も亦、夫なりけりと、人、みな擧りて、其が家庭のいみじきを賞し、其清貧を歎じにけり。其人は抑も誰ぞ。是れぞ、名士、吉田松陰が父母の住家なりける。松陰が母は、もと、萩の藩士、村田右中と呼べる人の女にして、其名を、瀧となん云へりけるが、故ありて、幼き時、兒玉太兵衞といふ人に養はれ、齡二十歳に及びける程、媒ちする者ありて、同藩の士、杉百合之助がもとに嫁ぎ、三人の男兒、四人の女兒をぞまうけにける。杉氏が家は祿薄ければ、男女の召使ひなど、もとよりあるべくもあらず。つぎ〳〵に生ひ出でたる、幼き子どもはたゞ足手まとひとなるのみにして、一つも、手助けとだになる事無し。さるを世海の波はやう〳〵動搖せんとするきざしあり、長へに泰平の春を夢みつる人も、次第に、眼を開かんとせり。夫は公けの務めをおびて、遠き境に出で立ちたるまゝに、早う六とせの星霜は經にけり。月にうつ砧の手もたゆく、壁にかこつ蟋蟀の聲に獨寢の夜寒身にしむ秋の長夜の、更たくるまで、ときあらひ衣つゞりては、泣く兒に添へ乳の腕もしびれぬ。さるが中に、姑母も、年老いて、立ち居起き臥しも、心まゝならぬを、瀧子は、かひ〳〵しく、いたはり助けて、孝養至らざる所も無し。其れだにあるを、姑母の妹なる人の、岸田といふに嫁ぎぬるが、其家、いたく衰へて、世のたづきを失ひたるにより、來たりて、杉氏に、身を寄せつ。斯くて幾程も無くて、ふと、病ひの床に打ち臥したるが、半年ばかりを經て、次第々々に、重りもて行きて、頼み少なきまでに至りしかば、瀧子は、いといたう心苦しがりて、さらでだに、親の許、夫の家ならぬ所に、相住みするは、何とやらん、心置かるゝものにこそあるべけれ。自らにて、思ひ知りぬ。女は、萬づに、物つゝましうするものなれば、遣はでもよき心をさへぞ遣ふなる。况て、斯う病に惱み給ひては、左こそ、世の中狹うおぼすらめ。あないたはしの君や。とて、明暮のみとり、至らぬくま無く、穢きものゝ洗ひすゝぎなど、人目にかゝるまじう、夜をこめて、取り隱し取りしたゝむる心じらひなどよ、内親の同胞といふとも、やはか、是れには、及ぶまじとぞ見えける。瀧子がまめまめしきに感じて、病める人は、伏しをがまぬばかりに悅び、姑母、將た、このありさまを見聞くまゝに、たゞさめ〳〵と打ち泣きては、人に語りけるやうは「我が嫁はまことに佛の化身にこそあれ。世の人を救はんとてぞ、斯かる所には生れ來たるなるべき。さらずば。いかで斯う迄は爲し得られぬべし〳〵や」などぞ云ひける。されば、是れを傳へ聞く者も、みな瀧子が尋常ならぬ、心行ひに感服して、及びがたしと歎じにけり。杉が實弟、玉木正韞といへるは、性極めて、峻嚴なる人なり。故に人を見ては遠慮なく、其れを指點し、敢て、其を容赦すること無かりき。然るに、正韞もたゞ、瀧子のみには、更に、一言の非難を加ふること無く、嘗て、ある友にむかひて、我が嫂は實に丈夫も及ばぬ人なりと、歎賞せりとぞ。又以て、瀧子がふるまひを證するに足るべし。斯くて、春去り秋過ぎて、幼き者も、やう〳〵大人ずけ行きぬ。賢母瀧子がおろそかならぬ、庭の訓に生ひ立ちぬる、小松撫子、いづれも、曲みすぢれたるもの、あるべくもあらねど、其が中に、夙に、鳳雛の譽れ高かりけるは、其次子松陰ぬしなりき。松陰、弱冠にして、早く、人の師表と仰がれ、遂に、塾を、松下村に開き、大いに時弊を論じ風敎を撓められける程、瀧子は、深く我が子の志しを嘉みして、勞を助け疲を慰め、其弟子を見ること、恰かも、わが慈孫を見るが如く、愛撫奬勵能く其寛嚴を過まらず、松陰もこれが爲に、また幾ばくの力をか得られたりけん。是時にあたりて、四海、やう〳〵騷然たり。風雲、



評議員　子爵夫人　松平銈子筆

次第に急なるに及び、松陰、國事に狂奔して、世の譴忌にふれ、罪を蒙りて、家に蟄居せられけるに、天下、同感の志士、いよ〳〵、ぬしが、名望をしたひて、こゝに來たり訪らふ者、日々にます〳〵多きを加へぬ。母の瀧子は、このさまを見て、悅ぶこと大方ならず。こは皆、國士なり、良友なり。宜しく、兒が爲に、厚遇せざる可からずと云ひて、自ら、厨房に下り立ちつゝ、肴を調じ、酒を燗め、往くを送り、來たるを迎ふる、その心用ひ、大方ならざりければ、誰れも〳〵、其芳情を嬉み思はぬぞ無かりける、嗚呼艱難に、心の玉を磨くに、こよ無き器なりとは云へ、さりとは、斯くもいみじき親子が上に、などてか、災厄は執念くつきまとひにけん。忠誠まことに、比ぶもの無き、松陰ぬしは、あたら、國家の爲に、大抱負を持たりながら、一つも、其が望みならずして、空しく刑場の露と消えぬ。君を思ひ世を慨く、靈魂はそも、何處にか迷はん。

(未完)

童話

怜悧な蛙

藤酒舍

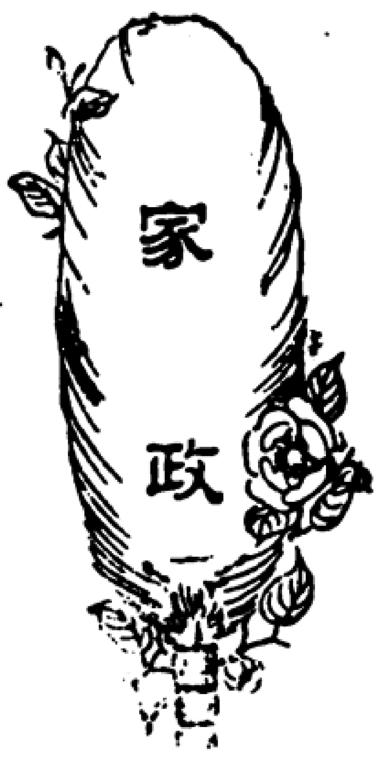
或田舍の農家で澤山鷄を飼ッてゐました。或日、其中の一羽の若い鷄は、皆なと一緒に遊んでゐては、なか〳〵味い餌が口へはひらないと思ひましたから、獨で仲間にはぐれて、前の田の中の小さな池の邊に行ッて、しきりに餌をさがしあるいてゐました。ところが、此池の水が小溝になッて流れ出る口の處で、不圖仲間の中の一羽の鷄に出逢ひました、此鷄も、やはり前の鷄の樣に、獨で味い餌を喰べやうと思ッて此處へ來たので、今思はず仲間のものに逢ひましたから、少し驚いて、ヤ、君もなか〳〵ずるい子、獨てこッそりうまい事をやるとは。と、ひやかしました。ところが前の鷄は、さういふ君こそ、僕よりは餘ッ程ずるいョ。と應へながら、よい餌はないかと、眼をくばッてゐましたが、丁度其時池から小溝の方へ泳いで來る蛙がありまして、双方一緒に之を見つけて、どちらも其蛙の足を一本づゝくはへました。溝を中にして、どちらも敗けまいと一生懸命で引張り合ひますから、蛙は痛くて堪りません、躰が今にも半分に裂けさうです。それでも雞等は尙ほきつくくはへて引張りながら、どちらからも唯クッ〳〵と云うてばかり居ました。蛙はこりや大變だ、默ッてゐては屹度死なねばならぬと思ひましたから、苦い息をつきながら、

あなたがた、どちらも、さう私の足をくはへて、唯クッ〳〵と爭り被仰ッたからッて、喧嘩の果てる期はありません。ちよッと私を其處へおろしてから、議論をなさッたら譯はありますまい。

と申しました。鷄等は何の考もなく此言葉に同意して、早速半殺しの蛙を口から離して、さて議論に取掛らうとしましたところ、蛙ははや水の中にもぐッて仕舞ひましたとさ。

(完)、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



◎女禮談片

菓子

第一　器物　器物には種々あり、或は緣高に盛りて三方或は足打に据ゆるもあり、或は高坏に盛るもあり、或は塗物又は陶器製の相當なる器に盛り臺或は盆に載せて出すもあり。其客の種類場合及び家の品位等によりて一定せず。又客をして持ち歸らしむるに便なるため、紙を筋違に二つに折りて、相當の盆に布き、之に菓子を取りて出すこともあるなり。

第二　出し方　臺或は盆に菓子を盛りたる器を載せ、相當の箸又は楊子を添へ客の方に正面の向くやうにし、兩手に捧げて持ち出て、客座の手前三尺ほど手前に跪きて之を客の前に置き、手を伸べて指の先きにて少し推し進め、然る後手足膝と一同に三度引きて歸るなり。

第三　引き方　手を兩股の上に垂れて、徐に歩行み出て、客前四尺程手前に跪き、一と進みして後、菓子器の兩端に指先きをかけ聊引きよせ、然る後持ち出でし時の如く兩手に捧げて、上手より三膝引きて、徐に立ち上り持ち歸るべし。

第四　受け方　菓子を出されたる時は、烟草盆の時記し如く、手を膝の左右に突きてそと一禮すべし。主人より勸めらるゝことあらば、徐に懐紙を出だし、蒸菓子ならば二つ折にし、干菓子ならば四つ折にして、左の手に持ち、楊子或は箸にて取り、之を元の位置に儘き、蒸菓子ならば、兩手に持ち紙ながら割りて、あたりにこぼれぬやうに注意して食ふべし。最も羊羹餅の如く、紙にて割り難き物は、楊子或は箸にて押し切りて食ふべし、又大豆粉餅小豆餅の如き者は、別に取り分くるに及ばず、直に器を取り上げて食ふべし。干菓子は取り分けたる後、手にて取り上げて食ふべし、大なるものならば、手にて善き程に折りて食ふをよしとす。總べて菓子の種類多くとも、其種類を殘らず取るものにあらず、二三種取りて止むべし。且つ言に任せて幾度も取るべきものにあらず。一旦取りたる物を若し食ひ終らぬ時は、其儘紙に包みて持ち歸るべし。又核あるものは紙に包みて袂或は懐にするをよしとす、皮核などを食ひ荒したる儘殘しおくはよろしからず。

◎家計收支の實況(其三)

福岡縣三池郡　何某子報知

卒爾ながら一筆きこえあけ候、私の家庭にては長兄は他所にて醫術開業いたし、中兄も他縣にて中等教育に從事いたし候故、家内は女ばかりにて、御報知申上るも誠にはつかしき事に候へとも、一通り書いつけ申候。

明治三十五年七月分家計收支

一家族　三人　但し母(六十五歳)私(十八歳)盲目の女(七十六歳)是は兄の乳母

一收入金九圓五十八錢

内譯

金二圓長兄より地租を納める爲めに貰ふ
金二圓中兄より今月始めて貰ふ
金五圓五拾八錢營業益金但其内金三圓養蠶業より得たる月割にせしもの金貳圓五拾八錢織賃
外に小作料米十七俵栗四俵大豆一俵廿藷百斤

一支出金九圓參拾六錢五厘

内譯

金壹圓五拾錢　圖書費(大日本女學會費とも)
金三圓六拾錢五厘　地租
金五拾錢六厘　雜費(廿錢剃刀五錢六厘茶碗一個拾錢半紙二帖十五錢下駄一足)
金二十錢　交際費(學校同窓會費但し二枚分)
金壹圓卅五錢四厘　諸稅
金七十錢　維費廿錢電信十五錢切手三錢端書十二錢米搗代(但し一日雇)二十錢日雇賃
金三十錢　賄費廿錢魚二斤六錢豆腐二丁
金壹圓廿錢　小遣費(一圓母上廿錢私是は愛國婦人會費に充んとて毎月貯金す)

殘金廿一錢五厘

七月分の計算右の通りに候定れる入金候はれば支出も月によりて不同に候○右の外に婦人界と讀賣新聞と中兄より送りくれ候家賃は入り不申候○賄費の少なきは菜園を所有致す故に候豆腐なども入用の折は自ら造り候へとも突然の來客の時は買求め申候(薪も所有の山より取り申候炭も夏分消炭をなし置き冬分それにて事足り申候○石油は一箱にて一年一個月計御座候○醫藥料のなきは長兄が醫士なる故に候

評　僅に九圓餘の支出中に、五圓許の納稅あり、全くの衣食住の費用は一人前壹圓に過ぎず、されども米も薪も野菜も醫藥料も豆腐も悉く手の物にて辨ず、之を金錢につもらば相當の額に上るならん。都會と田舍とは生活の有樣に相違の著きを見るべし。曾し以前は今よりも富み給ひしを、兩人の子息が學資の爲に身代の大半を失はれしにあらざるか。今後子息たちの榮達に伴ひ、老母はゆたかに餘年を送り給ふべし。其盲目の老女にいつまでも暇をとらせずして世話し給ふ、世にもありがたきなさけにこそ。

長崎縣佐世保　何某子報知

私はまだあまり經驗が小なう御坐いまして、こんな事を皆樣に御目にかけるのは誠に御はづかしう御坐いますが、また御目にかけて御批評を御ねがひ致すも益ある事と思ひましたうから、家計簿記帳から一ヶ月分の收支を寫取りて、御目にかけます次第で御坐います。どうか皆樣の思召を御心おきなく、御批評遊ばして下さいまし。

此月の樣に毎月支出が有るわけでは御坐いませんけれども、まだどうしても貯金を致す事には參りません。それで豫算は別紙の通り致して居ますけれども、どうも豫算通りには參り兼ねるので御坐います。とうぞ追々に皆樣のを拜見致したいもので御坐います。

明治三十五年八月家計收支

一家族二人　但夫婦

一收入金六十圓九十錢八厘　但し俸給一ヶ月分

一支出金六十三圓四十三錢也

内譯

金八圓五十錢
金一圓四拾錢
金九圓二拾錢
[金三圓九十七錢
金拾圓
金二圓五十二錢
金一圓二十錢
金一圓三十錢五厘
金五十五錢
金六十八錢
金七十二錢
金二圓四十九錢五厘
金四圓五十錢
金一圓六十錢
金二拾錢
金一圓三拾錢
金五拾錢
金二圓八十錢

家賃
新聞雜誌代
辨當代
(交際費(寄捐金郵便切手代等も)
被服積立金
小遣費　煙草代散髮代等
馬丁給金
馬糧代
米代一斗五升代
薪炭代
酒、酢、鹽、味噌、代
砂糖四斤代
野菜代
鷄卵三十七個代
牛肉、魚、鷄肉代
夏ヅボン一着代
馬丁胸當代
洗濯但しカフス、カラ、
郵代
小包送附代
雜費

一ヶ月分豫算表

一收入ノ部

一金六十圓　俸給

一支出ノ部

一金五十六圓九十錢

内譯

金八圓五十錢　家賃
金六圓　交際費(内稅金一圓)
金二十圓　馬用
金四圓　被服積立金
金一圓　書籍代
金三圓五十錢　米酒代
金二圓四十五錢　炭、薪、油費
金三圓六十錢　鷄卵、魚鳥牛肉及び野菜
金一圓三十五錢　味噌、醬油、鹽、砂糖代
金一圓　茶、菓子代
金三圓　雜費
金二圓五十錢　辨當代

殘金三圓十錢　是は不意の時の豫備金として置くのです。

評　豫算を立てゝ家計の收支に深く注意せらるゝ事いとめでたし、總じて危險の職業に從事する者は、貯蓄心の薄きは經濟學上一の原則ともいふべきものなり。武官たるの地位も此部類に屬するなるに、斯くも眞々たるは敬服の外なし。豫算表と決算表とを對照するに、大抵決算の方少額なり、唯吊袴帶と馬丁の胸當とにて、六圓拾錢といふ臨時費を要したる爲に、豫算を超過したるのみ。長へに此心がけを繼續し給はゞ、其人の官等榮進に伴ひて、巨額の貯蓄を有するに至り給ふべし。

◎三輪田女學校開校式に於ける菊池文部大臣の祝辭

女子は家政を整理し、其夫をして毫も内顧の憂なからしむると共に、其子女を鞠育薰陶するの重任を擔ふものなり。故に女子が少時に於ける智德の修養如何は、啻に家庭の良否に關係を及ぼすのみならず、牽て國民の習俗に影響するものと謂はざるべからず、女子教育の要豈多言を竢たんや。吾邦近年教育の進歩に伴ひ、女子の教育も亦漸次振興の緒に就きたりと雖、事尚創始に屬するを以て愼重の留意を要すると甚多し、是れ現今女子教育に一身を委ぬるもの、責任極めて重且大なる所以なり。顧ふに一般女子教育の成果として期望すべきは、英華煥發の才媛を出すにあらずして、寧ろ貞淑温厚の良妻賢母を作るにあり。三輪田氏は夙に女流を以て多年斯教育に從事せられ、其蘊蓄經驗する所によりて、今や新に一校を經營し、茲に開校の典を擧ぐるに至れり、國家の爲め深く慶賀すべきなり。自今其管理薫陶雨つながら宜しきを得、女子教育の本旨を貫徹し、以て益々校運の隆昌を致さんと余の希望して止まざる所なり。聊一言を陳て祝意を表す。

明治三十五年十月四日

文部大臣理學博士男爵　菊池大麓

◎三輪田女學校校歌

千本の花につゝまれて
きみに盡くしゝものゝふが
みたま鎭まる招魂社
ちかく仰ぐぞたうときや

氣はものゝふのいさましく
こゝろは花のあてやかに
いざやつとめん朝夕に
いざやはげまんもろともに

御國をおもふ師の君が
紀念にたてしまなびやの
もとゐをいよゝかたむべく
名をばますくひろむべく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

◎天皇陛下　今秋肥筑の野に於て施行せらるゝ大演習に、大元師として御統監の爲め、十一月六日東京御出發、同九日熊本御着輦の御豫定なりと承る。同地方の流行病も全く撲滅したる趣きにて同地方にては專ら奉迎準備中なりと云ふ。

○皇后陛下　來る廿一日上野公園に於て擧行する赤十字社祝典に行啓あらせらるゝよし。

○皇太子殿下　去にし六日葉山より御歸京あらせられたり。因に岩崎家より殿下に獻上の御用船は、此程進水式を擧げ初風と命名し、近日横濱に廻航し、直に獻納の手續を爲すよしなるが、同船は二本檣にして極めて美麗のものなりと云ふ。

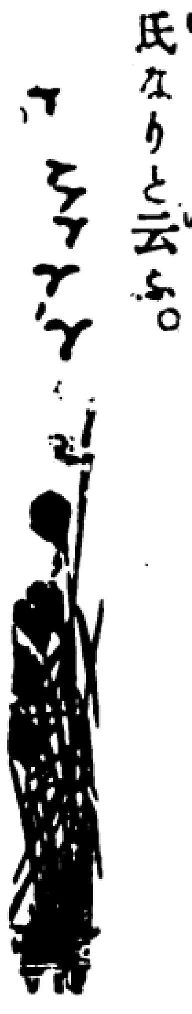
○皇太子妃殿下　雍仁親王殿下御同伴、去月三十日葉山より還御あらせられたり。還御途中御馬車の芝區より虎の門にかゝる時、一頭の野犬何處よりか顯はれ、御馬車を目蒐け飛付き、且つ猛聲を發して哮り狂ひつ、御馬車を追ひ懸けしかば、警衞の巡査は直に之を取押へ御馬車に別状なかりしよし。

○迪宮殿下　殿下は昨今著しく御成長あそばされ、近侍の手を要せず御立ちになり一間許りは歩ませ給ふよし。

○淳宮殿下　殿下川村邸へ御移轉について此程既に御付の人員等諸準備整頓したるを以て、數日の內に御移轉あらせらるゝ御豫定のよし。

○皇孫御所創建の御內定　皇孫御所御創建の事は既に御內定に相成り、來る卅六年度の宮內省豫算中に組入れらるゝ事となりたる由。

○故北白川宮殿下御銅像　砲兵工廠に於て鑄造落成し、此程建設地たる近衞第一聯隊門前迄運搬を終りたるが、來る廿八日の御忌日迄に建設を了る筈なりとぞ。御銅像は近衞師團長の略裝にて大勳位を佩はせられ、馬上の御姿にて、此設計及鑄造を爲したるは常時殿下に隨從せし軍曹新海竹次郎氏なりと云ふ。



◎愛國婦人會記事

●評議員會日割　本月中の評議員會日割左の如し

十月十五日（第三水曜日）　第四の組
同　廿二日（第四水曜日）　第五の組
同　廿九日（第五水曜日）　第一の組

●第二の組評議員會　同會は去にし一日第一水曜日に開會、出席者は松前藤子、鳩山春子、仁杉歌子、澁谷知和子、鄭濱子、各評議員を始め奧村五百子、相談役堀內少佐、增田大尉等出席の上當日の議案を提出し、午後四時頃迄評議ありて閉散せり。當日は京都府有志より寄贈にかゝる婦人會の紀章を染め上げたる二流の旗を陳列し、之に仁杉夫人等（日本橋區同夫人の部內）寄贈の附屬品をも添へ、一同の閲覽に供したり

●奧村刀自　本月下旬には新潟地方へ遊說の筈なり。尙刀自は近來視力衰へ、途中にて人に行合ひても、少しく距りては知人なるや否や見分け難き程にて、自ら禮を缺く事もあらんかと、いと心苦しければ、會員方に豫め諒恕を請はんため、本誌にことわり書かんことを申込まれたり。

●佐藤主事　先頃より學生保護會の用向にて郷里廣島に歸省中なりしが、去にし五日無事歸京せられたり。

●有功章贈與　本會に對し特に功勞ありたる人及金品寄贈者に對し左の如く有功章を贈與せり。

七寶金色製二等有功章　東京　伯爵母堂井伊紫子
同　東京　原亮三郎
同　靜岡　小林さち子
　以上金品寄贈に依りて贈與

七寶金色製二等有功章　鳥取　寺田春子
同　福岡　深野次子
同　京都　大森齡子
同　福岡　永田亭藏
同　京都　橋川惠順
同　熊本　德久張子
同　神奈川　周布貞子
同　兵庫　服部鈴子
同　福岡　永田らく子
　以上特別の功勞に依り贈與

七寶銀色製三等有功章　兵庫　大谷朴子
同　山形　本間光輝
同　東京　子爵夫人松前藤子
同　同　中山幸子
同　同　子爵田中光顯
同　同　男爵渡邊千秋
同　同　伯爵戶田氏共
同　岐阜　金森吉次郎
同　東京　前田、挺秀
同　同　公爵夫人一條悅子
同　同　子爵夫人香川須磨子
同　同　公爵夫人岩倉久子
同　同　公爵夫人近衞貞子
同　同　侯爵夫人前田朗子
同　橫濱　石井はつ子
同　東京　公爵夫人島津田鶴子
同　橫濱　左右田靜子
同　東京　原禮子
同　同　子爵夫人岡部坻子
同　同　伯爵夫人德川久子
同　同　梅ヶ谷藤太郎
同　同　子爵松前修廣
同　同　公爵母堂毛利安子
同　同　公爵夫人德川泰子
同　同　侯爵夫人山內禎子
同　長野　色部類子
同　東京　花房千鶴子
同　神奈川　吉田淸太郎
同　東京　木村せん子
同　同　木村靜子
同　東京　佐藤靜子
同　同　今村家壽子
同　大阪　本派本願寺眞宗婦人教會
同　滋賀　原馨
同　北海道　岩田又七
　以上金品寄附に依りて贈與

七寶銀色製三等有功章　鳥取　岡崎リヨ子
同　熊本　河內山熊太郎
同　同　竹內ゑん子
同　同　戶張瀧三郎
同　福岡　布野テウ子
同　神奈川　山田夏子
同　京都　橋川多ヨ子
同　鳥取　稻村ヒサ子
同　熊本　飯田まさ子
同　熊本　名和隆雄
同　熊本　福山正登
同　神奈川　石川田龜子
同　京都　八田一粽
同　同　伊澤千年子
同　兵庫　田中萱丘
　以上功勞に依りて贈與

「愛國婦人」を見て

會員　和歌山縣　浦　月子

文字ばかり尊きはあらじ、開け行く御世とゝもに、いよ〳〵文字の働き廣くなりゆき、教育の普及につれて、柴かるをとめも書よむを樂しみ、潮かづく海士の子も文字かく事をよろこぶ、志深き人には新聞に雜誌に見易きを慮り、世の人の爲くさ〳〵發すめり。そも此の愛國婦人は、軍人遺族救護の爲、ことさらに設けられたる、愛國婦人會の機關誌にして、こゝらの趣旨を廣く世の人にしらしめ、をみな〳〵御國の爲に盡すべき道を開かれたる、奧村五百子刀自が深き誠心の葉よりぞ出て來にける。かくてぞ到るに下民のためふかく惑ひませ給ふ、上の御心をも安くしろか得れば、かゝる有難きみはからひに、誰か同情の淚なかるべき、ますく〳〵きそひて入會の人々あまたなるに至るべし、かの柿本の大人がいはれけん、

ま弓もほこにもかへて筆とらば
　國ふりならぬをとはとゞめし

てふ歌の心も思ひいてられて、もじのたふとさも一入なりつ。

ほそくともちすちの糸をよりかけて
　強き御國のもとゐ結ばん

旅宿蟲（本月六日宮中月次御歌會詠進）

黑川眞頼
旅寢とて草はまくらに結ばれど虫のねきけばつゆけかりけり

本居豐穎
わけわれんあすの野山のつゆかけてれさめ身にしむ虫のこゑかな

大谷光尊
かりねする宿は野山とかはれとも虫のねきかぬよはなかりけり

久我建通
たひねして物おもひをれは我心しらてや虫のこゝちなくらん

小畑美稻
しつのめが糸ひくやとにたひねしてはたおる虫もきくよなりけり

坂正臣
あきの日のくれてやとりし旅やかた虫のねしけし庭ひろみかも

小出粲
よひ〳〵にきく虫のねもかはりけりいそへの枕山のいはとこ

千葉胤明
なく虫のこゑはしつかにふけたれとねふりかれたり旅なれぬ身は

雷　德島縣　橋本さは子
わか山の老木の松に落ちにけり夢をやぶりしよべのいかづち

烟　大坂府　山下あい子
はるかなる沖にたなびく薄けぶりみなとにかへる舟にやあるらむ

庵　同　同
すむ人の心しられてゆかしきは塵ひとつなき家にぞありける

◎『家計收支の實況』を書いつけて報知せられんことを、我が敬愛する讀者の君だちに希ふ。

○各地の方々よりの報知に由り、種々なる家計收支の實況を、此誌上にて見給はゞ、互に整家の參考となるべきこと尠なからざるべし。殊に土地に由り、職業に由り、身分に由り、費目にも金額にも著しき相違ありて、興味多かるべし。或は家計の帳面を、一月分だけ其まゝ寫して送りおこせ給ひても宜し。

○名前を出すことを厭ひ給はゞ、匿名にても宜し、されども、府縣市郡職業だけは知せ給へ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

◎故西村文學博士の「婦人の心得につき古今の異同」　今日の我邦は時勢大に昔に異り、外は世界の萬國と交通し進んで世界の强國と肩を比べんとするに至り、内は大に政の組織を變換して、平民も議員となりて國政を議することを得るに至れり。此の如き時勢となりたる上は、婦人も中等以上の身分の者は一家内の事のみを限りとせず、一國の事にも相應に心を用ゐて國家に對する義務を盡さゞるべからず。さりとて婦人に政談演說をなせといふにあらず、政黨に加入せよといふにあらず。凡そ婦人が國家に盡すべき道は頗る多しと雖今尤も急なるものを擧ぐれば、今日我國の大弊は奢侈を以て第一とす。奢侈の初は何人に起るかといふに、抵け婦人に起るものなり、凡そ奢侈は財產の富めるものには格別の害とならざる樣なれども、もと傳染病と同じく一人之を行へば十人之を眞似し、遂に百人千人より一國皆之を眞似るに至る、然る時は中產より以下貧家の者に至るまで皆身分不相應の奢侈をなし終に全國の困窮を來すに至る、故に己の財產豐なりとて妄に奢る時は、其害の及ぶ所極めて廣きことなれば恐れて慎まざるべからず。又奢侈と少しく異る樣なれども、奢侈より生じたる一大弊害あり　外國品の買過是なり。我より賣る所の物少くして彼より買ふ所の物多きときは　我國の正貨外國に流れ出て、遂に我國は貧困の國となるべし。右奢侈と外國品買過とは誠に國家第一の患なり。此奢侈を抑へ外國品の買過を防ぐとは到底男子の力のみにては及ばざる　となり。婦人も我日本國を大切なりと思はば共に力を合はせて此弊を防がざるべからず。云々、(日本弘道叢記)

◎下田歌子女史の「表裏ある小兒は如何に敎育すべきか」　兒童の言行に表裏あるは、多くは其幼時之に接近せる保姆傳婢等が隱し事をなし、或は陰言を言ひ虛言を放ち諛辭を呈しなどするさまを見聞したる爲か、又は兒童の意思を餘り抑壓したる爲か、とにかく其幼稚時代に天然を曲げ、よからぬ言行を耳目に觸れしめたるによるもの也。而して其矯正方法は第一、其兒童に接觸する人を選ぶ事、即ち其人物は正直にして慈愛深く、且つ勇氣ある者たるべし、第二其玩具及び身邊のもの皆智德體三育に裨益あるべきものたるべし、第三、大なる過失の外はなるべく其言行を叱責禁絶せず、努めて遠慮なく言ひ遠慮なく行ふ樣にしむくること是なり。斯の如くにして徐々に正道に導かば漸次其性癖を矯め得べし。總して小兒の敎育は、せかず迫らず而して毫も油斷なき注意を施すこと肝要なり。云々、(日本婦人)

◎國民新聞記者の「女子敎育の大本」　女子敎育の大本は淺薄なる知識の詰め込みよりも、爽良なる品性の鍛錬にあることは固より論を俟たず、女子は天性柔順なるが故に鍛錬の必要なしと云ふものあれども、柔順なれば柔順なる程寧ろ多くの鍛錬を必要とす。品性の鍛錬に次ぎては體育なり、世に男子の體育を說くもの多し、然れども經世的眼孔を以てすれば女子の體育は更に必要なり。然るに今日の女學校は軟弱なる少女に向て莫大なる學科を壓迫し、學業成らんと欲して神經衰弱の半病人たらしむるものあり、恐れざるべけんや。女子の敎育に難解の漢文を課するが如きは最も商量を要す、吾人は寧ろ趣味多き日用科學と經濟學とを推薦せんと欲す。女子をして天然と人事に涉觸せしむる者は實に此に在り。云々

◎棚橋絢子女史の「母親の心得」(承前)　女子を學校の寄宿舍に置くは頗る注意を要することなり。予一人としては如何なる事情あるも普通の寄宿舍などへは入れざるべし。普通の下宿屋に置くが如きは決してなすべからざるは論なきなり。故に遠方の學校に女子を出したる時は之を其師に托する外は、必ず家庭の謹嚴なる親族等に托して其親族の子女同樣に家庭の敎育を受けしむべし。次に父母特に母親の爲に述べんとするは、父母たるもの其女子の學力知識を自己よりすぐれたりと思考し、己を愚とし女兒を賢として之を傲慢ならしむるは弊あることなり、此弊害は知らず〳〵の間に甚しく兒女を害するもの也。元來子女の學問は其父母の致さしむるものにて、子女の進步は父母の進步なれば、父母は一步も卑下すべき理由なく、子女も亦傲るの理は更になき也。かの學校に通ひて文字を知り事物を諳記する如きは、資金と時間とを費さば白痴ならざる限りは容易の事なれば、父母たるもの決して子女をして其淺薄なる知識と、夢の如く脆弱なる經驗とに滿足せしめ傲慢心を生ぜしめて、折角の敎育却て彼等が身を誤るが如きことあるべからず。要するに兒女の敎育は安詳恭敬に在り、即ち輕卒ならず粗卑ならず、形は端莊にして心は畏懼の念を存するに在り。敎ふるに安詳なれば其子女は和順迫らず放心ならず、觀察は詳細に思考は綿密なるべく、恭敬なれば驕慢の情を絕ち、德性を涵養するを得べきなり。殊に智育の一方に偏し、或は技藝の敎育のみを施す如きは何れも誤れるものなれば、常に學問とは智行よりなり進んで德性の修養に在ることを忘れずして、始めて婦道を全うすべき婦人を養成し得べき也。云々(女鑑)

◎時事新報記者の「女湯改良論」　今日風俗取締は中々嚴重なるにも拘はらず、何故に女湯に三助の出入を許すやとの先提の下に、論して曰く元來裸體婦人の集まれる浴場へ、男子が足入るゝ如何はしき事なるに、身に寸布をも纏はざる三助が、遠慮しなく婦人に近つき、其身體に接觸するに至ては、日本の風俗上醜態の極にして、西洋婦人にも耻る可からざる野蠻の風習なり。外國に於ては、婦人の入浴には必ず婦人をして万端の世話を爲さしむるが常なり、然るに日本の婦人が此邊の考もなく、文明國の風俗に反する行爲をなすは宜敷く嚴禁すべし云々。

雜報

◎海軍水兵倶樂部の設立　海軍の水兵は常に海上勤務にあるを以て一定の居所なく、只軍艦の軍港に定駐するに際してのみ上陸して、海上勤務の勞を慰するが常なるに、日本に於ける各軍港は多く新開地にして、旅館及下宿の設備不充分なる爲め、遂には風儀上如何はしき處に出入し、 を濫費し風儀を紊るものあるに至り從つて一般軍人の士氣を殺く事甚だし。然るに我が同盟國たる英國に在ては本紙第十一號雜報欄に紹介せし如く、英國海軍水兵の母として自から任ぜるウエストン孃の熱心なる盡力により、既に廿五年前よりして此設立あり、今日に在ては頗る盛大に趣き居るよしなれば、我政府に於ても今般愈々其計畫を實行する事となり、差當り橫須賀軍港に模範集會所を設立し、去にし廿一日開所式を擧けたり。當日は有栖川威仁親王山階宮菊麿王殿下を始め御臨席あらせられ頗る盛大なりき。今其設備の大略を記さんに、建物は舊機關練習所に修繕を加へ、寢室、談話室、書籍室、遊戲室、食堂等の設けあり、創立基金としては差當り北淸事變恤兵金の剩金等を以て之に充てしも、元來本事業の性質は慈善の目的に出つるものなるを以て、今後は可成世の篤志家及貴婦人方の賛成を得て、半官半私の形にて運用せんことを希望し居るよし。當日我奧村女史にも大臣より招待狀來り、演說の請求もありしが、生憎本會の爲め差支ありて臨席せられざりしは遺憾なりし、追々我が會も盛大に趣くに從ひ、振つて此會に補助ありたきものなり。

◎三輪田女學校開校式　本會評議員三輪田眞佐子女史が經營に成れる麴町區四番町十四番地なる同校は、校舍落成せるにより、去にし四日午後一時開校式を擧行したり。其式の模樣を略記せんに、先づ君が代の吹奏を以て式を始め、同校敎頭三輪田元道氏(校長女史の養子)は同校設立の始末を報告せられ、次で校長の挨拶、千家府知事の祝詞、大隈伯及び成瀬日本女子大學校長、麴町區長、東京市長、菊池文部大臣、細川華族女學校長、及び同校敎師總代、生徒總代の祝辭、近衞公爵夫人下田歌子小川直子等諸氏の祝歌披露あり。最後に同校々歌の吹奏ありて式了り、別室にて茶菓の饗應あり、四時頃一同退散せり。當日の來賓は大隈伯松平伯岡部子千家男坪井博士成瀬女子大學校長大倉喜八郎森村市左衞門鳩山山脇松平高木諸夫人津田安井矢島山川の各女史等名士貴婦人敎育家等約百五十名なりし。因にいふ、同校は三輪田女史が所有せる神田西小川町同錦町麻布霞町なる三個所の家屋代價大凡貳萬圓を擲ちて設立せしが、尙壹萬圓許の不足を生じ、其內三千圓は女史の最も親しき人々より寄附あり、不足七千圓は書を著して之を補ふ決心なりとぞ。養子元道氏には既に文學士になりたれば自立せよとて、財產は少しも與へざる都合なりとぞ。

◎日本女子大學校　同校に於ては去月廿七日英文科敎師の送迎會を開けり。送らるゝはヒユース孃にして、迎へらるゝはライト孃なり。今ライト孃を同校に迎ふるに至りしはヒユース孃の紹介にて、英國の有名なる新聞に廣告せしに、希望者非常に多く、其內よりライト孃選に當りしものにて、孃は數ケ國の語に熟通し、英國敎育界に於ても名望高き婦人なるよし。當日送迎會に於ける來會者の重なるは、大隈伯、菊池文相、岡部子爵等內外の貴女紳士數百名なりし。尙前號に記載せる同校へ巨額の寄附をなせし豐明會の起因を尋ぬるに、曾て米國の支店にありたる森村氏の令弟數年前に死去せられ、又氏の子息も其後同國に於て死去せられたれは、同家にては兩氏の追善の爲め其名の頭字を取りて豐明會を組織し、其積立金三万圓を寄宿舍建築費に寄附せしなりと。依て同校には之を豐明寮と稱し、三家族の寮舍を建築するよし。

◎東京音樂學校　同校には去にし五日同校紀念式を擧行したり。同日午前十時より式を始め、式曹・祝辭・音樂・說・合唱等あり。午後には餘興として各生徒の管樂獨奏及唱歌の獨吟と、各科生徒の合同餘興數番あり。次で師範科一年級男生徒の催しの「活動寫眞」及本科三年級女生徒の催しに關る「夜會」は滿場の喝采を博したり。終りて茶話會を開き午後六時頃散會せり。尙同校に於ては過般豫科及乙種師範科の入學試驗を擧行し、應募者各科七十人中入學を許可せられたる者、豫科にあつては三十人、乙種師範科廿三人なりし。尙又同校敎授幸田延子孃の妹幸田幸子孃は業成りて此程歐州より歸航の途につき、本月下旬には歸朝の筈なり。又ピアノ專修の爲め歐洲へ派遣せられたる同校の瀧廉太郎氏は、病氣の爲め一時歸朝するよし。

◎女子高等師範學校　同校には明年四月入學せしむべき生徒を募集す。其人員は文科・理科・技藝科各二十五名にして左の資格に該當するものは各府縣廳に願書を差出すべしとなり。但し東京府は十一月五日が願書差出期日なりとぞ。

一　身體健全品行方正の者

二　女子師範學校女子部、修業年限四ヶ年の高等女學校卒業生若くは之と同等以上の學力を有する者

三　年齡十七年以上廿二年未滿にして夫を有せざる者

四　府下在籍者は寄留の者

◎女子敎育取締方法　近來女子の敎育上種々不評判なる事共新聞紙上に顯はれ、女子の敎育上に非常なる障碍を來すの恐れあり、依て文部省は之れが豫防策として、高等小學校以上の女學校に在りては、公私何れの學校たるを問はず、父兄の許より通學するものを除くの外は、一切其學校に於て嚴重なる寄宿舍を設けしめ、在學生徒は殘らず此內に收容し、十分なる責任者をして之を監督せしむるの方針を採り、若し私立の學校にして寄宿舍を設くるの資力なきものは、斷然廢校せしむるか、又は他の有資力の學校と合併せしめ、徹頭徹尾此大方針を貫徹すべしと云ふ。

◎成女學校　麴町なる同校にては、去にし四日午後三時より、奧村五百子刀自の演說會を開けり。來聽者は生徒數百名の外、有志婦人も來會し　頗る盛會なりし。尙同校には、目下家事科講習會を開き、會員募集中にて、其目的は高等女學校以上の、家庭的知識の普及擴張を謀るに在りと云ふ。

◎アイヌ敎育慈善大音樂會　本會評議員松前子爵夫人の主唱發企にかゝり多數の有力なる貴婦人方の盡さるゝ同會は、來る十八十九の兩日上野音樂學校奏樂堂に於て開會の筈にて、十八日は午後二時半より開會、第一部は歐洲樂にして、斯道の名家ケーベル博士も特に同會に同情を寄せて出演し、陸軍々樂隊も亦出演する由。第 部は箏若の樂・狂言・仕舞等なり。同十九日は午後一時半開會能・狂言・三曲・長唄等日本音樂の催しなりとぞ。中に好天氣にて盛會ならんことを祈る。

◎佛敎音樂會　同會は專ら佛敎音樂の制定及び其普及を目的として組織せるものにて、去月廿九日淺草山の宿東光社に發會式を擧げたるよし。

◎博覽會協贊音樂會　第五回博覽會の開會を機とし、大坂に一大音樂會を開催すべしとは辻新次、山脇農商務總務官其他の人々の計畫する所なりしが、此程議愈熟したるを以て去月廿八日伊澤修二、辻新次、平山成信、大島氏館、山脇春樹、古市公威、手島精一諸氏の連署を以て大坂市長に宛て其協贊を求め、且つ經費の補助に關する一篇の書面を送附したり。今其計畫の大要を聞くに、音樂の趣味効用を一般に普及せしめんとする趣旨にて、明、淸、古、俗の音樂を初め、謠曲、能樂、狂言等音樂の種類は和漢洋に亘りて之を設け、會頭一名副會頭三名幹事若干名を置き、經費は入場料及び寄附金を以て之に充つる考案にて、已に發起人と大坂市長との間に內相談ありし上なれば、必らず成立するに至るべしといふ。

◎帝國婦人協會　去にし五日午後一時開會、矢島楫子、三宅秀、下田歌子諸氏の演說ありたるが矢島楫子氏は女子敎育に就ての希望と題して、我が女子敎育の科學的なると、智育體育の著く發達せるとを賞し、終に德育の缺乏せるを歎き、餘りに放任主義に陷らず自己を以て自己を制せよと勸告せり。

◎大日本婦人衞生會　同會は暑中は休會し居りしが、去にし四日に東京女學館にて開會し、三宅秀氏の家庭看護法、佐藤進次郎氏の內臟外科の話あり頗る盛會なりき。

◎老婦人會　寺尾理學博士の母堂の發起にて一昨年組織せられたる老婦人會は、去にし一日例會を巣鴨なる家庭學校に催せり。來會の老婦人は寺尾博士母堂後藤新平氏母堂德富猪一郎氏母堂矢島楫子グリン博士夫人等四十名にして、留岡氏の講話あり。明治女學校生徒の唱歌等あり。饗應には校內に作りたる栗にて栗飯を饗したり。午後四時過ぎ田園道を逍遙し立ち、一同歸宅したるよし。同會は老婦人たちの宅にて、順次催さるゝ會合にて、互に打解け仕事を談し子女の敎育についても話し合ふなど頗る淡泊にして趣味ある會合なりとぞ。

◎露國太公と米國大統領夫人　先頃我邦を經て米國に渡りたる露國ボリス太公ウラヂミール親王は、シカゴに於て一夕の宴歡談の興を變して、其穿てる靴を召し、之に酒を盛らしめて盃に代へたることあり、此事世上に聞えて往々太公の擧を云々するものありしが、之が爲め米國大統領ルースヴエルト夫人は、事に託して太公に會するを避けたりと云ふ。太公の大統領を訪ひたるは九月四日にして、時にルーズヴエルト氏は尙は紐育州オイスター灣にあり、馬車事變の負傷を療養中なりしかば、太公はニユーポートより遊船に駕し、之に渡り、露國大使カシニー伯と共に療養地に就て敬をルースヴエルト氏に致したるものなり。大統領は之に饗宴を饗し、終りて太公辭去し、再びニユーポートに歸れり。是れより先き太公來訪の由を聞き、ルースヴエルト夫人は其著せざるに當り、匆忙サガモーア丘に去り、太公の歸れるを待ち、再び其宿舍に歸りたり。是れ全く夫人が太公の風流を傳聞し、假しや露國の從弟を以てするも、尙ほ且つ之に會するを潔しとせざりしに依るものにして、米國婦人基督敎節酒會の如きは、頗る夫人の此行動に滿足を表したり。云々と彼地の新聞に見ゆ。

◎婦人の長距離自轉車乘　英國のローサ、シモンス孃は、一千八百六十哩の陸路を、二十五日と一時四十七分とて、自轉車に乘つて往復したが、一日の平均は七十哩で、一番長距離を馳せた時は、一日に百五十三哩を走つたと云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本誌愛讀の君達に告ぐ

こたび事務員を増し、發送の事を入念に取扱はしめ候事に致し候。此段一寸披露に及び候。

本誌代價未濟の方々は御手數ながら御送金いたゞきたく候。

尚初號に廣告致候通り本誌定價は一部につき金三錢五厘に候へども會員方に限り郵送料共金三錢にて差出し候に付相成るべく半ヶ年分（金三十六錢）又は一ヶ年分（金七十二錢）取纏め御送金下されたく度候

明治三十五年十月十日

東京麹町區下二番町卅七　大日本女學會内

愛國婦人發行所

婦人必讀の週刊新聞!!!　夫人令孃の好伴侶!!!

婦女新聞

毎週　月曜

婦女新聞は明治三十三年五月十日皇太子殿下御慶事の紀念として第一號を發行し爾後每週日を誤りたるよなし

（定價）一部金三錢▲一ヶ月十二錢▲三ヶ月三十七錢▲半年七十二錢▲全國無郵税

發行所　東京市牛込區東五軒町四一（電話番町一三〇六）　婦女新聞社

◉兒童新聞は日本唯一の教育的兒童の讀物なり

子を持たる、父兄諸君は **御愛兒**のために本紙を購ひたまへ讀ませて喜ばせる斗りでなく **教育上の參考と**りま す

特色

◉言文がごく平易て、尋常科三年生以上のものであれば、よく讀み、よく解することができる◉野卑な記事わ全くさけ、凡て教育的に出來てゐる◉あらゆる科學をごくわかり安く、ごくおもしろくかき兒童の智識を啓發する◉多く四號活字をつかつて兒童の衛生に意を用ひてある◉挿圖はすべて記事と連絡あるものを用ひ、ことに畫匠に意を用ひて、兒童の趣味を養ふ◉學校教育との連絡に意を用ひ學校で學びしことを自在に應用せしむ◉特に言葉づかひに意を用ひ國語統一の大機關を以て任じてゐる。

毎月三回五ノ日發行

定價▲一部一錢五厘▲十部十五錢▲廿部三十錢▲卅部四十五錢▲五十部七十五錢全國無遞送料（凡テ前金　見本ハ往復端書ニテ照會アレ）

發行所　東京本郷區本郷五丁目二十二番地　電話局八百四番　**兒童新聞社**

帝國貯蓄銀行

銀座　丁目河岸通り　八十六番地

本郷一丁目　本郷支店
飯倉四ッ辻　飯倉支店
赤坂表一丁目　赤坂支店
四谷大通り　四谷支店
南品川一丁目　品川支店
横濱吉田町　横濱支店
牛込神樂坂　神樂坂支店
神田須田町　須田町支店
両國米澤町　米澤町支店
淺草雷門前　吾妻橋支店
日本橋坂本町　代理店　田中銀行

●一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱申候
●毎月五日迄の御預け金は全月分の利子を付け申候

●水原産科婦人科病院

○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設置あり

大日本女學會

總裁小松大宮妃殿下　副總裁鍋島侯爵夫人

推戴贊成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他贊成貴婦人百餘名

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の専門家なり

新學年を開き會員を募集す

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を掲げたる講義録を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科（毎月一回廿五日女學講義發行二個年終了束脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁）

○倫理坪内雄藏○禮法佐方鎭子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文坂正臣○文法今泉定介○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋弘○日本歴史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子○萬國歴史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野清○植物松村任三○生理衛生三宅秀○家事衛生同○小兒衛生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成德○點茶松浦伯爵○園藝池田伴親○法制經濟岡戸隆介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科（毎月一回五日女學講義發行二個年終了束脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁）

○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋弘○日本歴史大森金五郎○日本地理喜田貞吉○算術上野清○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衛生三宅秀○家事綱要後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字坂正臣○圖畫武村千佐子○史傳下田歌子○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

昨年十一月新學年開始　十二卷迄發行　初卷より缺本なし

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●束脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

東京麹町下二番町三七（電話番町壹參參〇）**大日本女學會**

◉誠實を旨とし愛國婦人新聞の特約販賣致候

業務擴張 **書籍雜誌** 何れの出版を不問取次販賣　敏活勉强

東京神田表神保町　**東京堂**　電話本局二四八番

◉愛國婦人誌御希望の向は申込有之度候

四號 青年界	四號 婦人界	十二號 教育界	六號 軍事界	九號 文藝界
十一月一日發行	十一月一日發行	十月三日發行	十月五日發行	十月十五日發行
定價金貳拾錢 郵税金貳錢	定價金貳拾錢 郵税金貳錢	定價金貳拾錢 郵税金貳錢	定價金貳拾錢 郵税金貳錢	定價金參拾錢 郵税貳錢五厘

東京本町　**金港堂書籍株式會社**　●各府縣に特約販賣店あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

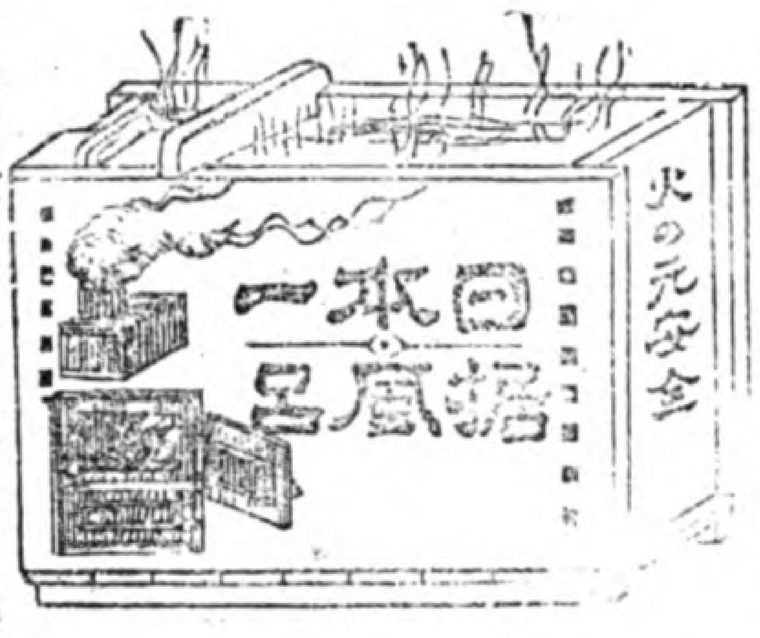
◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

陸海軍醫科大學御用

此竈は是迄世間にありふれたる薄鐵瓶物製造の粗製品と違ひ總鋼を以て堅固無比の製造にして永久ノ保存に堪へ焚物は薪石炭其使用を得て焚物を減じ僅か廿分間に飯が出來同時に銅壺の湯沸き々釜を下さは如何なる鍋にても掛くることを得る尚出來合ひの竈とは違ひ煙は一切煙る事なく至極輕便にして日用經濟の大王なり●圖面細表は郵券二錢送れば呈す

竈の大王



●會木製並二人〇鋼製改良新石炭燃湯沸釜付ﾉり湯付種々其外何人入にても出來合有之外桶風呂も有り々改良早沸釜丈に改てもの定價に販賣仕候間續々御求願上候

●此の外湯屋旅店料理店用釜各種出來有之候

定價　圖面の釜を除く外一切附屬付三升焚廿一圓四升焚廿六圓半五升焚三十二圓六升焚四十五圓此外にも種々あり

製造發賣元　日本橋大門通油町十九番地 電話浪花一四六一　銅器物問屋 南部鐵瓶販賣　石川商店

本舗　東京日本橋區橫山町十三番　佐野大和堂

壽美花おしろい　ヴワイヲレット製　伊勢吉製

正價　大瓶二十錢　小瓶十二錢

定價　大瓶廿五錢　中瓶十五錢　小瓶十錢

西洋色白くなる洗劑　壽美花あらひ粉　東京兩國伊勢吉

定價綠藍紅彩蝶番ひ鑵詰六錢ト厚ホツクス入三錢袋入壹錢

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすとかんようにして少しも脾胃にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたつぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり●○南まけづつう目まひによし○ふるちとゝこほり、ながち○しらち○手あしいびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つきむしによし○さんごわとはらのいたみはいかほどのよきいたみにても一卜包にて功あり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

本家製藥所　東京市本所區東兩國橫網町一丁目　齒磨店　伊勢吉本店　(電話浪花二七五八)

○三大醫先生御實驗有効證明○

顔面皮膚美白洗劑　チヱリー　香料 雲南麝香ウワイオレツト入

大瓶參十錢　小瓶拾貳錢

弊店より發賣するチヱリー洗粉は特に國手方の實驗證明せらるゝ有効世に比類なし一度御試用所る

發賣舖　東京新橋竹川町拾貳番地

登錄商標　チヱリー　ゑり治　園田

本店　電話新橋二千二十七番

賣捌店は全國到る處小間物化粧品店賣承店に有

御半ゑり帶揚類

斬新意匠柄類數多く調製

雀形○ゑり治形○まげ入

竹川町十二　新橋博品館支店　電話新橋二千二十七番

登錄商標

愛國婦人廣告取扱

神田區千代田町　博報堂　電話本局一四四番

京橋區尾張町　弘報堂　電話新橋八五番

京橋區八丁堀中町　一星社

商標

芝區日蔭町通源助町十三番地

袴專業　住吉屋　犬飼吉兵衛　(電話新橋二〇六五番)

●御袴地、御仕立袴、學校用男女御德用向、特別品廉價に販賣仕り裁縫は殊に叮寧を旨として高尙に堅固に可仕候に付陸續御用命奉冀候

●弊店は古昔より袴專業にて夙に御好評を蒙候

正四位勳三等醫學博士三宅秀先生著

家事衛生

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑托により講義されたるものなり。書中に衣服・食物・住居・育兒・看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ、何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたる。世に類なき家庭主宰者の寶典なり。

總クロース綴ぢ金文字入り　紙數菊判二百四十餘頁　定價金六拾錢　郵稅金六錢　本會々員に限り特に郵稅共金四拾八錢とす

田邊和氣子刀自遺稿

此書は故田邊女史の令名を不朽に傳へんとて本會より紀念の爲發行したる者にて書中割烹・點茶・活花の三篇を收む。是等の科目を說きたる書世に多かれども、之を讀みて實際に講習し得らるゝものは此書のみなりとの世評あり。是れ畢竟女史が京都高等女學校・華族女學校・東京女學館および本會等に於て多年授業法に熟練せられたりし結果なるべし。なほ附錄として女史が歌・文數十篇をも載す。

總クロース綴ぢ金文字入り　紙數菊判五百四十頁　定價金壹圓　郵稅金拾貳錢

發行所　東京麴町區下二番町三十七　大日本女學會

總裁小松大宮妃殿下　副總裁鍋島侯爵夫人

大日本女子會發行　東京麴町區下二番町三

第二卷第九號發兌

毎月一回十五日發行定價金拾五錢全國無遞送料

《卷首》本會贊成員中山幸子筆、新選百人一首歌かるた《論說》婦人修飾論 故西村博士●英國の家庭教育(承前)下田歌子《學藝》和書解題(水鏡)喜田文學士●漢書解題(三國志・晉書其他五書)丸井文學士●兒童ノ言語(四)梅澤和軒●明治維新の原動力七 津田黃岳●作文批評、今泉定介●作歌批評大口鯛二《齊家》點茶、松浦伯爵●割烹、石井泰次郎《世務》經濟談(會計)伊藤秋南●各地產業ノ實況(二十四)「長良川の鵜飼」伊奈かく子《譚叢》義理ある子(中・下)岸本柳子●雲雀ノ雛(下)大塚素江《詞藻》書讀ト例 斑大口鯛二●田邊和氣子日記●み々の會員詞藻《雜錄》刺繡(承前)木村仲子●眞珠の話、中村綠水●婦人論梗概●家計收支の實況《彙報》內外要報十數件

大賣捌　●東京堂　●東海堂　●有斐閣　●北隆館

明治三十五年十月十日發行(毎月十日廿五日二回)
明治三十一年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN